

# 1 級 眼鏡作製技能検定試験の試験科目及びその範囲並びにその細目

## (1) 技能検定試験の合格に必要な技能及びこれに関する知識の程度

眼鏡作製の職種における上級の技能者が通常有すべき技能及びこれに関する知識の程度を基準とする。

## (2) 試験科目及びその範囲

表 1 の左欄のとおりである。

## (3) 試験科目及びその範囲の細目

表 1 の右欄のとおりである。

### 学 科 試 験

#### 【04】眼鏡販売系

表 1

試験科目及びその範囲	試験科目及びその範囲の細目
① 接客・接遇・マナー	<ol style="list-style-type: none"><li>次に掲げる接客応対について詳細な知識を有すること。<ol style="list-style-type: none"><li>基本接客マナー</li><li>接客話法・質問方法・提案方法</li><li>多様なお客様（高齢者・幼児・学童・障がい者等）への接客応対方法</li><li>外国人のお客様に対しての基本的な対応（挨拶・販売用語）</li></ol></li></ol>
② コンサルティング	<ol style="list-style-type: none"><li>次に掲げる項目を確認するための質問事項について詳細な知識を有すること。<ol style="list-style-type: none"><li>顧客の要望・状況（作製理由・希望眼鏡・使用目的・不具合）</li><li>顧客の潜在的な要望・不具合</li></ol></li><li>次に掲げる現用眼鏡について詳細な知識を有すること。<ol style="list-style-type: none"><li>入手状況・使用状況</li><li>使用状況に影響する要因</li><li>顧客の要望・状況との関係</li></ol></li></ol>

試験科目及びその範囲	試験科目及びその範囲の細目
	<p>(4) 屈折状態との関係</p> <p>3. 次に掲げる項目に適した眼鏡タイプについて詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 顧客の要望・状況</p> <p>(2) 屈折状態</p> <p>(3) ピント合わせ量・明視域</p> <p>(4) 現用眼鏡の使用状況</p> <p>(5) 眼鏡所有状況</p> <p>(6) 潜在的な要望・不具合</p> <p>4. 次に掲げる項目の作業距離・明視域について詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 職業別</p> <p>(2) 趣味別</p> <p>(3) 近業作業別（P C ・デスクワーク）</p> <p>5. 次に掲げる項目に適したフレームについて詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) レンズ作製度数</p> <p>(2) レンズ設計</p> <p>(3) 顧客の要望</p> <p>(4) 使用目的・使用環境</p> <p>6. 次に掲げる項目に適したレンズについて詳細な知識を有すること。</p> <p>(1) 顧客の要望及び状況・作製度数・屈折状態</p> <p>(2) 着用履歴・所有眼鏡</p> <p>(3) 効果・使用状況</p> <p>(4) 潜在的な要望・不具合</p> <p>(5) ピント合わせ量・明視域</p> <p>(6) 自動車運転</p> <p>7. 眼鏡業界の動向・その他時事・トレンド情報について詳細な知識を有すること。</p>